

全作物共通

- ①気温低下に応じた生育適温を確保しましょう。また、ハウス内の湿度に留意して換気を行い病害の発生を防ぎましょう。
- ②翌年の栽培に向け、土壌診断を実施しましょう。
- ③農薬の安全使用に細心の注意を払いましょう。希釈倍率や使用時期を守り、適切な保管、管理を行いましょう。
- ④農作業事故等が発生しないよう、機械整備や体調管理には十分留意しましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名	パセリ	発生状況・要因								
病虫害 生理障害名		<ul style="list-style-type: none"> ・9月以降発生が多くなっており、今後も注意が必要である。 ・葉の表面がうすうすと白いかびに覆われる。 ・20～25℃の乾燥条件下で発生しやすい。 								
うどんこ病		<p>対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場をよく観察し、発病初期に防除する。 ・発病の進んだ葉は摘み取って、ほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>希釈倍率</th> <th>使用時期</th> <th>本剤の使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●クムラス</td> <td>500～1,000倍</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数	●クムラス	500～1,000倍	—	—
		希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数						
●クムラス		500～1,000倍	—	—						
発生状況		<ul style="list-style-type: none"> ・少発生時：1,000倍で収穫作業後に散布。 ・中発生時：500倍で収穫作業後に散布。 ・多発生時：500倍で収穫作業後と収穫数日前散布。 								
多発生	<ul style="list-style-type: none"> ・多発生時：500倍で収穫作業後と収穫数日前散布。 ・葉部は細かい切れ込みや凹凸があるため、葉斑が残しやすい。 ・クムラス使用時は展着剤を必ず使用し、散布水量は流れ落ちない程度（10aあたり200ℓ以下）とする。 									
発生時期	8月上旬～									

ハウス土壌の透排水性を改善しましょう

【ほ場の心土破碎】
 作物の根の伸長や排水を妨げる耕盤層の対策としては、サブソイラ等による心土破碎が有効です。心土破碎は深耕に比べて、土壌の物理性改善効果が大きいとされています。機械はサブソイラの他に、フラソイラ等があり、それぞれの作業性や効果を考慮し、目的に応じた方法を選択して実施します。



《心土破碎の工法と期待される効果》

工法	耕盤層対策	排水対策	施工機械
心土破碎	○～◎	△～○	サブソイラ・パラソイラ
幅広型心土破碎	◎	○	フラソイラ・ハーフソイラ

【ハウス周辺の明きょ】
 短時間に強い雨が降った際、ハウス外からの雨水の浸透や浸水を軽減するため、ハウス周辺の明きょの施工を検討しましょう。明きょは排水路につなげる必要がありますが、直接つなげられない場合は、明きょの先に穴を掘って雨水ますを設置し、ポンプを活用して排水している事例があります。

ハウス周辺明きょの事例



排水ポンプでくみ上げて排水路へ流す
 明きょから流れてくる水

土壌分析を実施しましょう

土作りの第一歩は土壌診断です。3年に1度は土壌診断を行い、施肥設計に活かしましょう。

【土壌の採取方法】

土壌の性質は、一筆のほ場の中でもかなりのばらつきがあります。

生育に差が見られない場合は、対角線に5か所以上を採取し、よく混ぜて一つの分析用の試料(500g程度)とします。(図1)

生育に差が見られる場合は、それぞれを同様に採土してください。

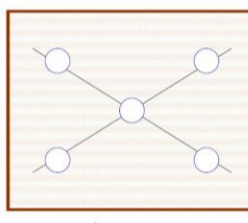


図1 土壌の採取位置

このとき、表層部を薄く剥いた後、耕起する深さまでV字型に掘り、その面に沿って一定の厚さで採土します。(図2)

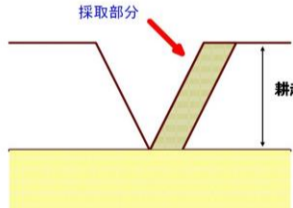


図2 土壌の採取深さ

●印の場所から耕起する深さで採土してください。

野菜畑などでうね立てしてある場合は、隣のうねにかけて採土するか、うねとうね間を交互に採土します。(図3)

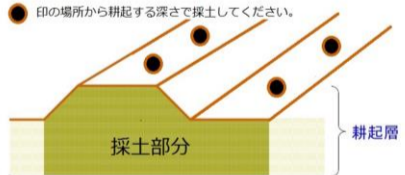


図3 うね立てしている場合の土壌の採取位置


申し込み時期、分析料金などについては、農協等にお問い合わせください。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域（旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町）向けに作成されています。気象・土壌条件作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。（不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません）

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■

【環境整備編】 一次年度に向け、秋のうちにできることを行いましょう

・本年も短時間に激しい降雨があり、場所によってはハウスへの浸水・冠水等の被害が発生しました。本年、被害を受けたほ場や被害を受ける可能性がある場所を再度確認し、秋のうちに対策を図っておきましょう。



ほ場周りの明きょ設置で安定生産